

令和4年度 第9回

宍粟市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 令和4年12月16日 午前9時30分から

場所 宍粟市役所 4階 402・403会議室

第9回（定例）宍粟市教育委員会会議録

● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和4年12月16日（金） 午前9時30分～午前11時10分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所 4階 402・403会議室

● 会議に出席した者の職氏名

教育委員

中田直人 教育長

片山繁樹 委員

金本一二 委員

飯田さおり 委員

中川まゆみ 委員

事務局

大谷奈雅子 教育部長

小河秀義 教育部次長

進藤美穂 次長兼教育総務課長

岩薮貴裕 こども未来課長

西林文隆 次長兼施設整備課長

谷尻博誉 学校教育課長

水口恵子 社会教育文化財課長

池本雅彦 次長兼山崎学校給食センター所長

中尾善弘 次長兼まちづくり推進課長

梶原昭一 人権推進課長

西岡公敬 一宮市民局副局長兼まちづくり推進課長

竹田有希 教育総務課 主事

1 開会

中田教育長が開会した。

2 会議の成立宣言

出席者数5名となり、中田教育長が会議の成立を宣言した。

3 会議録署名委員の指名

署名委員は、中田教育長の指名により、金本委員に決定した。

4 前回会議録の承認

令和4年度第8回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件

前回の会議録について、進藤次長兼教育総務課長が説明し、承認された。

5 教育長報告

次の4点について、中田教育長が報告した。

(1) 山崎学校給食センターの全国学校給食甲子園（2022）決勝大会結果について

第17回全国学校給食甲子園決勝大会の結果について、冒頭でお伝えしたとおり、見事に優

勝を飾った。この後、担当から詳細を報告する。

(2) 「しそうの子ども生き生きプラン」後期基本計画について

生き生きプランの後期計画について、前回の委員会でも進捗状況をお知らせしているが、計画案が作成できたので、この後、宍粟がめざす学校教育等について、担当から報告する。

(3) 宍粟市スポーツ推進計画について

昨年度から策定を進めている宍粟市スポーツ振興計画について、計画案が作成できたので、この後、担当から説明するので、審議いただきたい。

(4) 山崎幼稚園旧園舎の今後の方向性について

山崎幼稚園の旧園舎の今後の活用を含めた施設の方向性について、このたび、山崎中心市街地の活性化をめざす「よいまちプロジェクト」という団体から、旧園舎を活用したい旨の申し出があった。今後、庁内での検討を踏まえながらであるが、詳細がわかり次第、報告させていただく。後ほど、小河次長からも報告する。

6 議事

第17号議案 「宍粟市スポーツ推進計画」について

資料1P及び別冊資料により、スポーツ基本法第10条の規定に基づき、スポーツ分野における基本方針や基本施策を定めた「宍粟市スポーツ推進計画」を策定することについて、中尾次長兼まちづくり推進課長が説明した。

審議の結果、第17号議案は、提案どおり可決した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(中田教育長)

この計画は、宍粟市において初めて策定するものか。

(中尾次長兼まちづくり推進課長)

初めて策定するものである。

7 協議報告事項

(1) 独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金に関する要綱の制定について

資料1【2P】により、進藤次長兼教育総務課長が説明した。

(2) しそうの子ども生き生きプラン後期基本計画(案)について

別冊資料により、谷尻学校教育課長が説明した。

(3) 令和5年度版「宍粟の教育」編集方針について

資料2【3～4P】により、谷尻学校教育課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(金本委員)

10月末に開催された教育創造シンポジウムの内容について、参考になることが多くあった。先ほど報告にあった「生き活きプラン」や「宍粟の教育」に盛り込めていければと思うが、そのあたりはどのようになっているか。

(谷尻学校教育課長)

シンポジウムのなかで、コミュニティースクールを推進しながら地域とともにある学校づくりということで話があった。また、義務教育9年間を見通した連続性のある教育ということで、小中学校9年間のカリキュラムを編成し、小中の先生が一緒になって子どもの成長を見ていくといった話もあった。

これらを踏まえ、地域との協働による小中一貫校幾の充実ということで、生き活きプランの主要施策6にまとめている。

(金本委員)

シンポジウムのなかで、一宮北学園の中学校の校長先生が「小中一貫を進めるうえでさまざまな連携事業を全部やろうと思うと大変である。何点かに焦点を絞って進めることが大事。」と話され、印象に残っている。これから小中一貫教育を推進していくうえで、また、教員の働き方改革の観点からも、どこに焦点を絞り、どのように推進していくかが大事かと思う。一宮北学園の場合は校舎が併設されており交流しやすいと思うが、千種学園の場合は少し離れており、そういった点からも、焦点を絞って取り組んでいくことが大事かと思う。

(谷尻学校教育課長)

教育委員会が地域の実情を踏まえた学校づくりが推進されるよう学園を支援するというので、委員が言われたように、一宮北学園と千種学園では状況が違う。波賀地区でも来年度からスタートするが、波賀地区は千種学園と似ている状況かと思う。一宮南地区や山崎地区についても、当然環境が違ってくるため、教員の働き方改革という視点も持ちながら、各地区・各学校の実情を踏まえた推進が必要と考えている。プロジェクト会議などを通して、方向性を決めていきたい。

(中田教育長)

令和5年度版の宍粟の教育編集方針について、本日の第17号議案スポーツ振興計画は関連するのか。

また、宍粟の教育について、今回、しそうの子ども生き活きプランの後期基本計画が策定される予定であり、整合性を図るうえでも、教育関係者への配付にとどまらず、市民にも配布する資料だと思うが、どのように考えているか。

(中尾次長兼まちづくり推進課長)

スポーツ推進計画との関連性について、これまで「宍粟の教育」の中の社会教育部分の1項目としてスポーツ振興を掲げていたが、今回、国がスポーツ庁を立ち上げ、また、市においてもスポーツ推進計画の策定に至ろうとしていることから、令和5年度版からは、社会教育のなかではあるものの社会教育とは別にスポーツ推進の項目を立て、本日

審議いただいたスポーツ推進計画の内容に沿った形で、市民の皆さまに取組を周知したいと考えている。

(谷尻学校教育課長)

宍粟の教育の配布・周知については、各学校において、全保護者に配布を行う。加えて、各市民局等にも備え付け、市民の方にも自由に見ていただける状況を整える。宍粟の教育における取組内容や課題について、児童生徒の保護者はもちろんであるが、市民の方にも知っていただくことで、宍粟の教育の方向性等について周知していきたい。

(中田教育長)

1点目について了解した。

2点目について市民への配布を目的とするのであれば、そこを明確にし、内容についても総花的・網羅的な構成にするよりも、地域総がかりや地域との協働等のキーワードを用いて、宍粟の教育はすべての市民の方に参画いただきながら学校づくり・地域づくりを行っている部分を強調し周知していくことができれば、しその子ども生き生きプラン後期計画との整合性を図るうえでも、非常にわかりやすいリーフレットになるかと思う。

(4) 教職員の勤務時間実態調査結果報告書について

資料3【5P】により、谷尻学校教育課長が説明した。

(5) 幼保一元化推進状況について

資料4【6P】により、岩露こども未来課長が説明した。

(6) 宍粟市文化財保護事業補助金交付要綱の一部改正について

資料5【7～9P】により、水口社会教育文化財課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(中川委員)

勤務時間実態調査結果報告書について、前年度も今年度も9月に実施しているようであるが、9月に実施する理由はあるのか。

(谷尻学校教育課長)

最初に勤務時間の現状調査を行ったのが9月であり、以降、毎年比較ができるよう9月に行っている。報告書としては9月のものとなるが、教員等の勤務時間については9月に限らず把握している。

(中川委員)

市全体としては減少傾向にあるが、事務員についてはあまり変わっていないようで、その辺を減らすのは難しいのかと思う。また、持ち帰っての業務は調査対象になっていないようだが、それが増えてしまえば解決にならないので、先生の働きやすい職場環境の整備につながる調査が必要かと思う。

(谷尻学校教育課長)

新型コロナは行事や業務を見直すきっかけの一つとなり、コロナ禍以降、運動会は半日開催とするなど、学校行事も取捨選択を進めている。

今後も勤務時間適正化会議等において、学校現場の意見もいただきながら、勤務時間の適正化に向けた取組を推進していきたい。

(中川委員)

行事や業務については適宜見直していただくとともに、先生方には、一人ひとりの子どもと丁寧に向き合ってもらいたいので、その部分が充実するような取組を進めてほしい。

(谷尻学校教育課長)

一人ひとりの子どもと向き合う時間を確保するためにも、行事や業務の見直し・勤務時間適正化の取組を推進していきたい。

(中田教育長)

これは市の独自調査だと思うが、実施時期の問題、また、調査対象に持ち帰っての業務を含んでいない問題は中川委員の指摘のとおりかと思う。せつかく調査をするのであれば、業務改善や勤務時間の適正化につながるような調査となるよう、あらためて目的、時期、内容等について、事務局で検討されたい。

(片山委員)

持ち帰っての仕事については、調査対象にすると大変な実態があるのではないかと思う。時期については、学期末や年度末にはもっと超過勤務が多いことも予想されるので、時期を変えて実施することで、新たな課題が出てくるかと思う。

大切なことは、なぜ学校が多忙なのかということ。先生方は仕事をやらされているわけではなく、子どもや保護者のために、自発的に業務を行っており、それがずっと増え続けているのではないかと思う。業務のゴールが明確に見えない中で、個人の裁量に任されている部分が多く、それが問題かと思う。

生き生きプランのなかで学校のスリム化の項目があり、スリム化を進めることで子どもと向き合う時間を確保するとあるが、スリム化を進めるためには、スクラップ&ビルドが必要になる。しかし、現状では、先生方の意識の中に子どもや保護者のためという気持ちがあることから、ビルド&ビルドとなりがちで、スクラップはなかなかできない。その意識を変えていくためにも、宍粟スタイルというか、以前実施した学校訪問の際の指導案をやめて板書計画にするなど、組織で効率化を図る取組が必要になる。個人の裁量、努力で勤務時間を削減していくことには限度があるかと思う。

(谷尻学校教育課長)

学校からは早く帰るが持ち帰って仕事をされるケースが多いことは承知している。

また、学校から人員増の要望も多く出されている状況であるが、何とか子どもと向き合う時間を確保したい思いからのものである。

教育委員会として、教員の各業務を精査していく必要はあるが、一方で片山委員から

ご指摘があったように、組織的に少しでも教員の負担を減らし効率化を図れるような取組を推進する必要もあり、ここ数年、指導案のケースのほか、オンライン会議の導入や出張機会の見直しについても取り組んでいる。

2月に業務改善等のことで教員との協議の場があるので、持ち帰り業務や業務改善等について、市教委と教員の間で共通理解を持てればと考えている。加えて、この調査の在り方や時期等についても検討していきたい。

(7) **学校給食における異物混入状況及び対策について**

資料6【10P】により、池本次長兼山崎学校給食センター所長が説明した。

(8) **第17回 全国学校給食甲子園（2022）決勝大会結果について**

当日配布資料により、池本次長兼山崎学校給食センター所長が説明した。

(9) **その他**

・ **宍粟市御形の里オートキャンプ場について**

資料7【13～19P】により、西岡一宮市民局副局長兼まちづくり推進課長が説明した。

・ **山崎幼稚園旧園舎の今後の方向性について**

口頭により、山崎幼稚園の旧園舎をよいまちプロジェクトによる地域活性化の拠点施設として活用いただくことで、第2のダム機能として人口流出の抑制機能が強化・充足されるものと判断し、これまでの旧園舎の除却の方針を改め、存続させて活用する方向で今後調整をしていく考えであること、その調整は市長公室が中心を担い関係部局と連携をしながら進めていくということ、また、法的手続き等の関係で活用できない場合もありうることについて、小河次長が説明した。

8 次回会議の招集について

令和5年1月19日（木）午前9時30分から、宍粟市役所4階402・403会議室において、令和4年度第10回宍粟市教育委員会を開催することとした。

9 閉会

片山委員が閉会した。